

# 随泉寺寺報

平成 24 年 (2012 年) 12 月号 第 508 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

## 浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

### ■客殿完成お披露目内覧会 ～客殿を見に来てください～

斧 (おの) 入れて 香 (か) におどろくや 冬木立 (ふゆこだち)

与謝蕪村

▲冬枯れの林で、木を斧で切ってみると、木の香りがただよってきた。表は枯れているようでも、木の中では生命が活動していたんだ。▼

客殿が完成いたしました。新しい木造の家はなんといい香りでしょう。木の香りです。まさしく命が躍動しているような気がします。完成記念お披露目会をいたします。いい香りを嗅ぎに来てください。現在は庫裏の増築工事をしています。



井原のほうからは形が見えるようです。建ってみるとなかなか大きくて、楽しみです。今までの庫裏は1階を解体しているのでみすばらしい形ですが、隣に新しい庫裏が形が出来てきました。これも今は木造がむき出しなのでいい香りがしています。

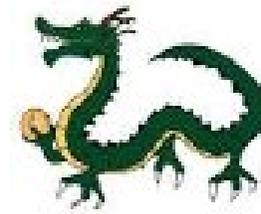
先月から御法座はお休みです。来年の4月までは御法座はないので寂しいですが、時々には工事の進み具合を見に来てください。

### 12月の法座予定

- 12月 2日 ..... 本部役員会
- 12月 9日 ..... 掃除 高部
- 12月16日 昼席午後2時より ..... 客殿お披露目内覧会
- 12月31日 午後11時30分より ..... 除夜会
- 1月 8日 午後5時より ..... 門信徒会本部役員会

☆ 「みなさんは龍を見たことがありますか？」 ～今年が龍年でした～

先月訪日されたブータン国王夫妻が被災地、相馬市の小学校で子どもたちに語りかけられた龍の話に、心うたれました。



「龍は一人ひとりの心の中に住んでいて、経験を食べて成長します。いろいろな経験をした人の龍は大きく強くなる、みなさんも心の中の中の龍を大切に育てていってください」という話です。心の中に住む龍とは何でしょうか。人生は思いりには行きません、望まないこと、大切なものを失うことも起こります。

悲しみ苦悩しながら、私たちは本当に大切なものは何かを知るのです。経験を食べ成長する龍とは私たちの価値観、一生を貫く人生の物差しなのだと思います。

3.11の衝撃は私たちの人生観、価値観を根底から揺さぶりました。数百年おきに繰り返されてきた大地震と津波、天災そのものを無くすことは私たちにはできません。

目の前に何枚もの資料 真があります。3.11をはるかに超える惨状、一晩に十万人が焼き殺されました。広島も長崎も名古屋も大阪も、そして熊本の市街地の惨劇も同様だったでしょう。民間人だけで四十万人が犠牲になったのです。

今、地震・津波は天災で原発事故は人災だと言っています。この資料 真の惨状は、もちろん天災ではありません、究極の人災は戦争です。私たちは天災から逃れるすべを知りませんが、人災であるなら防げるはずですが。

ブータンは仏教徒の国です。国旗の真ん中に描かれている白い龍は、仏教の慈しみと寛容の心を表しているそうです。若い国王夫妻の柔和な表情、謙虚なしぐさ、合掌する姿にそれを見る思いがしました。「憎しみ、争い、奪い合う先にあるものは悲しみと虚しさだけである、赦し分かち合うところに安らぎと喜びがある」と仏陀は語りかけます。焼き尽くされた瓦礫のただ中に立ち尽くした人たちは、取り返しつかない大変な犠牲をはらって戦争の恐ろしさ虚しさを知らされました。その人たちの心に宿った龍が「戦争放棄の誓い」を結実したのでしょうか。



二〇一二年も残り僅かとなりました。今年が龍年でした。本当に大切なものは何か、見誤らないための龍は、私の中に育っているのでしょうか。

### ☆除夜会

今年も例年のように除夜の鐘つきをいたします。しかし庫裏の工事中のため、本堂の中の行事は中止です。11:30分ぐらいから鐘の前でお勤めをしてその後、除夜の鐘つきを開始します。くじは本堂の縁側で行います。誘い合わせてお参りしてください。

### ☆御礼

永代経懇志 金 拾萬円 二野宮アキエ殿 故 二野宮 孝様 特 永代経志として  
永代経懇志 金 拾萬円 要田 百合子殿 故 要田 勇様 特 永代経志として

# 12月

## ×より○がよく見える 「心の目」を大切に

私は、校長を務めさせてもらった間、先生方に、いつも、「子どもの答案に○をつけるときには、できるだけ大きくはっきりと、×は虫めがねで見ねば見え ほど小さく、つけてやってください」と、頼み続けました。そして、親ごさん方には「どうか○を見てよろこびのことばをあげてください。そして、それを軸にして、×を○にかえていこうとする意欲を育ててください」と、訴え続けてきました。

ある四年生の男の子は、「お父さんに、つうしんぼをわたすと、じっと見ておられました、『うん、これならよかろう。おとうさんの四年のときより上トウじゃ』といわれました。ぼくはうれしくなつて、これからは、まい日勉強するぞと、けっしんしました」と書いています。

このお父さんのことばには、親としての、素直なよろこびの思いが輝いています。そのよろこびにふれて、この子は、見事に「やる気」を起こしています。

草や木は、太陽の光の方向に伸びます。子どもは、お父さん、お母さんのよろこびの方向に伸びます。この方向には、仏さまのよろこびがあるからです。

子どものいけないところは、責めるよりも、悲しみとしてください。悲しみの向こうには、仏さまのお悲しみがありません。子どもは、それに触れて、自分の「非」に、目覚めていくのです。

どうも、いまの親ごさん方は「×」はすごくよく見えるくせに、「○」を見る力が、極めて弱いように思われます。「×」しか見えないままですと、老人になってからも、ブツブツ、不平ばかりいって若い人たちから嫌われますよ。

「○」を見る目を大切にしてくださっていると、老人になって、お孫さんのお守をするようになって、「私は、しあわせ者だ、こうして、毎日、かわいい孫のお守がさせてもらえる。孫が大きくなって、いよいよもう失業かと思っていると、また小さいかわいい孫を産んでくれる。私はしあわせ者だ」というおばあさんになられるでしょうと、冗談まじりに訴え続けてきました。

「○」と「×」、どちらがよく見えるか、「心の目の視力表」と考えて、度々自己点検していただく必要があるように思われます。



## 原京子 お礼の手紙

生前はお世話になりありがとうございました。私の急な死去に備え、あらかじめ生前に書いたご挨拶状を遺族からお送りしています。

2012年10月9日 遺族にしるしてもらって出す。

原 京子 法名 釋澄清 平成24年10月9日往生 行年58歳

病気をする前の私は、人生を振り返り、可もなく不可もなく、平坦ではあったけど、不幸とは思えず、まあまあの人生だと思っていました。そして病気は私にほんの些細な出来事を幸せと思えるように変えました。

これは私の予想の人生の長さ、今、私に許された長さと比べ、短くなったから、つまり縮まった分、濃縮されて、濃くなったからでしょうね。私の周りの人達は、家族も含め、一様にやさしく親切で、大きな怒りに翻弄されることなく生かされています。

私は楽しむことが大好きです。出かけること、食べること、おしゃべりすること、読むこともそして書くことも好きかな。改めてこんな私を許していただき、愛してくださり、思ってくださり、温かい眼で包んでもらっていることに感謝します。皆様本当にありがとうございました。

死に対する覚悟はだんだんに出来てくる。徐々に心を鈍くする、心に落ちてくるもの。あきらめる事で乗り越えてきた。

私の人生是か非か、答えは健全なあきらめ。

「自分自身のご機嫌を取るのも容易ではない」

「気力」は生きるうえで大切な要素。

「私の命は私のものであって、私だけのものではない」

「死なないで」と願ってくれる人がいるなんてうれしいことなのだろう。

人間の本質としての「もっと生きていたい」という望みは、誰にでもある。私にだってあるよ、きっと心の奥深く沈めているんだ。忘れていたと思っているんだ。なぜって、私自身が苦しくなるから、周りの人も迷惑かけるし、苦しめると思う。死を覚悟することは、潔いことだろうか？ 淡泊すぎるだろうか？ 大好きな人達と一緒にもっともっと生きたかった。先に逝ってしまうのはいやだよ。つまらないよ、もっと楽しみたいよ。もし許されるなら、楽しく 白く暮らしたい。もう苦しく生きるのはイヤだ。楽になりたいんだ。これは健全なあきらめか？ 笑顔でいたいのに涙があふれてくる。

